

平成
28年度

全国学力・学習状況調査の結果について

1 調査結果の公表にあたって

教育課程の編成および授業改善や児童生徒の学習状況の改善等に役立てることをねらいとし、全国学力・学習状況調査が実施されました。本町では、この結果を基に、家庭・学校・地域の連携を深め、学力向上の取り組みを推進します。

なお、調査結果については、以下のことにご留意願います。

- 調査の目的や調査結果は、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面であること。
- 全道および全国の平均正答率との比較により、序列化や過度の競争をあおるものではないこと。

2 調査の概要

(1) 調査の目的 ①義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育委員会施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。

②学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。

(2) 調査実施学年 全小学校6学年および全中学校3学年

(3) 調査の内容 ①教科に関する調査（国語、算数・数学）

問題A 主として「知識」に関する問題 問題B 主として「活用」に関する問題

②生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査

3 教科に関する調査結果 正答数÷問題数＝平均正答率（％）

●低いまたは高い：3％以上5％未満 ●やや低いまたは高い：1％以上3％未満 ●同程度：1％未満

(1)小学校	国語 A	国語 B	算数 A	算数 B
本町と全道・全国との数値比較	全道よりやや高く 全国と同程度	全道よりも高く 全国よりも高い	全道よりやや低く 全国より低い	全道よりやや低く 全国より低い
全道	71.0%	56.0%	75.3%	44.5%
全国	72.9%	57.8%	77.6%	47.2%

(2)中学校	国語 A	国語 B	数学 A	数学 B
本町と全道・全国との数値比較	全道・全国と同程度	全道よりやや高く 全国と同程度	全道・全国と同程度	全道よりやや高く 全国と同程度
全道	75.1%	65.0%	61.8%	43.3%
全国	75.6%	66.5%	62.2%	44.1%

(3)考察

小学校の国語Aでは、「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」、国語Bでは、「書くこと」「読むこと」で全国を上回っています。算数Bでは、「図形」で全国を上回っています。しかし、算数A、Bとも全道および全国と差が見られます。知識や技能等を実生活のさまざまな場面に活用する力や、課題解決のための構想を立てる力を伸ばす必要があります。

中学校の国語Aでは、「話すこと・聞くこと」、国語Bでは、「書くこと」「読むこと」で全国を上回っています。数学Aでは、「図形」「資料の活用」、数学Bでは、「関数」「資料の活用」で全国を上回っています。全体的に改善傾向にあることから、今後も学力向上に向けて、組織的、継続的な実践を積み重ねていく必要があります。教科に関する調査（一部紹介）

	全道・全国より正答率が高い問題	全道・全国より正答率が低い問題
小学校 国語A	・問題①「漢字の読み書き」 快晴→かいせい、貯金→ちょきん、 省く→はぶ、たね→種、そうだん→相談	・問題⑧「ローマ字の表記」 りんご→ringo、あさって→asatte、 hyaku→ひゃく
小学校 算数A	・問題⑥「三画定規を4枚使って、できる形を選ぶ」 図形の学習において、具体物を用いた活動を通して図形の性質を実感的に理解しています。	・問題⑨-②「1を超える割合を百分率で表す場面において、基準値と比較量の関係」 日常生活において、何が基準量に当たるのか意識して、比較量や割合の関係を正しく捉えることが大切です。

中学校 国語A	問題⑨「漢字の読み・語句の意味」 封筒→ふうとう、報われる→むく 「忘れがたき」の意味	問題⑨「漢字の書き・適切な語句の選択」 どくそう的→独創、白羽の矢が（1立つ2刺 さる3飛ぶ4向かう）から選択、正解：1立つ
中学校 数学A	- 問題①－(3)「正と負の数の加法計算」 －3＋(－7) - 問題②－(3)「整式の加法と減法の計算」 (2x＋5y)＋3(x－2y)	問題①－(2)「自然数の意味」 アー5、イ0、ウ1、エ2.5、オ4 正解：ウ、オ

小学校・中学校とも、無解答率が全道および全国よりも低い傾向です。この結果から、児童生徒が問題を最後まで、あきらめず、粘り強く、解答しようとしている姿勢がうかがえます。

4 生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査の結果 児童生徒の割合（％）

本町では、「早寝・早起き・朝ごはん・テレビを止めて外遊び」の定着を啓発しているほか、「スイッチOFF22」などSNS使用に関する意識の改善を図っています。「スイッチOFF22」とは、午後10時以降のSNS使用を、自分で制限する取り組みです。昨年度同様に、これらの啓発活動に関係する調査結果について公表します。

A：している B：どちらかといえば、している C：あまりしていない D：全くしていない

(1)「朝食を毎日食べていますか」の調査に関すること

小学生	A	B	C	D	中学生	A	B	C	D
別海町	84.6%	11.8%	2.4%	1.2%	別海町	86.5%	8.8%	3.4%	1.4%
全 道	84.9%	9.1%	4.6%	1.3%	全 道	81.8%	10.7%	5.5%	2.0%
全 国	87.3%	8.2%	3.5%	0.9%	全 国	83.3%	10.0%	4.8%	1.8%

生活習慣の確立に向けた取り組みを家庭と連携したことなどにより、朝食を毎日食べている児童生徒が増え、生活習慣が改善されています。

(2)「家で、自分で計画を立てて勉強していますか」の調査に関すること

小学生	A	B	C	D	中学生	A	B	C	D
別海町	29.6%	37.3%	24.9%	8.3%	別海町	17.6%	36.5%	35.8%	10.1%
全 道	29.0%	34.3%	27.8%	8.8%	全 道	16.9%	31.3%	35.6%	16.1%
全 国	26.7%	35.5%	28.8%	9.0%	全 国	16.0%	32.4%	36.7%	14.8%

本町独自の家庭学習ウィークの取り組みや学習方法等の具体例を提示したことなどにより、家庭学習の習慣が定着しつつあります。

(3)「自分には、よいところがあると思いますか」の調査に関すること

小学生	A	B	C	D	中学生	A	B	C	D
別海町	38.5%	30.2%	17.8%	13.6%	別海町	23.6%	42.6%	26.4%	7.4%
全 道	33.1%	39.9%	18.2%	8.8%	全 道	28.0%	40.1%	21.9%	10.0%
全 国	36.2%	40.1%	16.2%	7.4%	全 国	27.4%	41.9%	21.3%	9.3%

将来の夢や希望、自らの考えを述べる活動を推進したことにより、自尊感情や自己肯定感が高まりつつあります。

5 今後の取り組み（継続）

(1)学 校 ①授業改善に向けた組織的な取り組み ②学力向上プランの改善 ③校内研修の活性化

(2)家庭・地域 ①家庭学習の充実 ②基本的な生活習慣の確立、改善

(3)教育委員会 ①校内研修での指導、助言や継続的な学校支援

②地域性を活かしたコミュニティの推進

③学校力、教師力の向上を目的とした「生き抜く力向上策定プロジェクト」の推進

問合せ／学校教育・適正化等担当（内線3511）

平成29年度 町立認定こども園 (幼稚園型)の入園児の募集をお知らせします



■募集幼稚園・募集年齢など

園 名	募 集 年 齢	提 出 書 類	連絡先
認定こども園 中西別幼稚園	① 3歳児 (平成25年4月2日から平成26年4月1日までに生まれたお子さん)	・支給認定申請書兼入園申込書 ・保育を必要とする事由を証明する書類 (児童の両親と18歳以上65歳未満の同居者全員分)	75-6604
認定こども園 上西春別幼稚園	② 4歳児 (平成24年4月2日から平成25年4月1日までに生まれたお子さん)	・その他、必要に応じ町長が定める証明書 (該当者のみ。)	77-2653
認定こども園 野付幼稚園	③ 5歳児 (平成23年4月2日から平成24年4月1日までに生まれたお子さん)		86-2836

※各園の運営内容、入園基準等詳細は、下記へお問合せください。

■募集期間 12月5日(月)から12月26日(月)まで

■申 込 み 入園希望する幼稚園に、必要書類を提出してください。入園申込書等の用紙は、各園にあります。
問合せ／学校教育・適正化等担当 (内線3513)、各幼稚園

別海町生涯教育研究所所報

別海町幼小中高生「生活と健康に関するアンケート」結果

子どもの家庭学習習慣について



家庭学習を「しない」と回答する児童生徒は、小学校低学年で10.7%、高学年3.0%、中学生2.0%と、学年が進むにしたがって減っています。

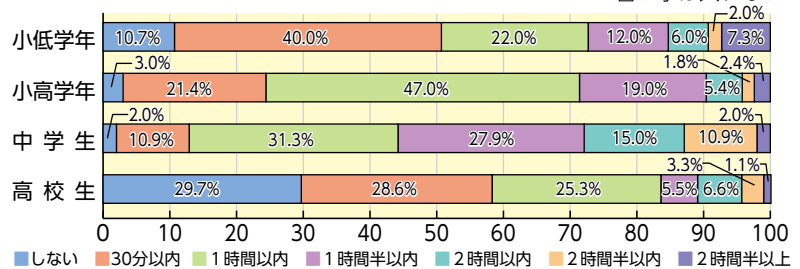
中学生では、1時間以上家庭学習に取り組む生徒が55.8%と、中学生全体の半数を超える結果となっています。

このことから、家庭学習の時間は、小学校低学年、高学年、中学生と増加しており、年齢と共に定着していていることが分かります。

さらに本年度、町内全ての小中学校、高等学校の家庭学習の取り組みも調査してみました。各校とも、児童生徒の発達段階に応じてプリントやパンフレットなどを作成し、家庭学習の仕方を見守りや保護者へ啓発しています。

また、全ての小学校が「学年×10分」を最低時間として取り組んでおり、中学校の基礎となる小学校段階では、卒業までに「1日60分間」の家庭学習ができる力を育てることを目指していることが調査結果からわかりました。

普段、学校から帰って、家や学習塾でどのくらい家庭で学習をしていますか
※習い事は入れない



学びの環境づくり ～スイッチOFFの時間を一緒に～

低学年の時期から学習習慣をつけていくことが、とても大切です。そのためには、各学校が提示している時間を目安として家庭学習の時間を確保するとともに、子どもが勉強に集中しやすい環境をつくるのが大切です。ご家庭で次のような関わりをしてみてください。

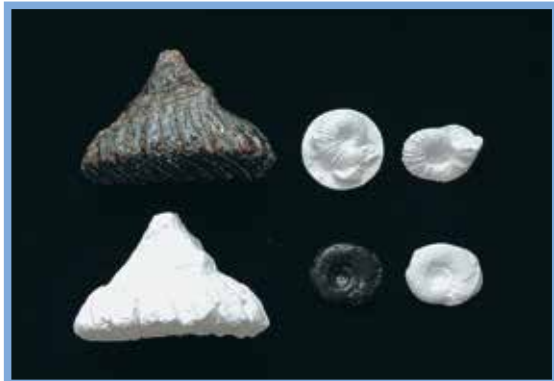
- ▶ テレビやゲームを消して、静かな環境で一緒に過ごすこと
- ▶ 隣で本を読んだり新聞を見たりしながら、学習を見守ること
- ▶ 学習を頑張ったときには、肯定的な声かけをすること

「環境・見守り・声かけ」この3つの関わりで子ども達が家庭学習を続け、学年に応じた時間を頑張れる習慣を身に付けていくことが大切です。「継続は力なり」です。こつこつと努力を続けることで習慣が形成され、「生き抜く力」となる努力の大切さが身についていきます。

アンケート結果の詳細を教育委員会ホームページにて公開しています。 <http://b-school.jp/blog/kyoui/>

早寝早起き朝ごはんテレビを止めて外遊び

「化石のレプリカを作ろう」のお知らせ



写真左がマンモス、右がアンモナイト

- 日 時 1月13日(金)
 ①午前の部 午前10時から正午まで
 ②午後の部 午後1時30分から午後3時30分まで
- 場 所 郷土資料館
- 対 象 小学生
- 内 容 型に石こうを入れて、アンモナイトやマンモスの化石のレプリカを作ります。色を塗ることもできます。
- 定 員 午前および午後の部ともに10名限定です。電話、FAXまたはメールにて氏名、電話番号を12月25日(日)までにご連絡ください。

12月の休館日 3日、4日、12日、17日、18日、23日、26日、29日～31日

1月の休館日 1～7日、9日、15日、21日、23日、29日

問合せ／郷土資料館
 TEL・FAX 75-0802
 Eメール kyoudo@betsukai.jp

地域資料の収集にご協力ください

図書館では、町内各地区や学校、会社等で発行された記念誌などを収集しています。

図書館開館以後に発行された記念誌は、皆様のご協力により多数収集することができましたが、古い地域資料や、開館以前に発行された資料は、図書館に無いものが多数あると思われます。

地域資料は、年が経つほど昔の町の様子を知る貴重な資料となりますので、資料や資料に関する情報をお持ちの方、研究をされている方は収集にご協力をお願いします。

また、既に図書館で所蔵している資料も副本として活用しますので、ご寄贈ください。



12月の本の展示 クリスマスの本展



絵本や物語のほか、手作りプレゼントやパーティの本など、クリスマスを楽しむための本を展示します。展示期間中の貸し出しも行っています。

- 期間 12月1日(木)から12月25日(日)まで
 ■場所 図書館エントランスホール

小さい子のお話の時間

図書館職員が赤ちゃん絵本の読み聞かせや手遊びなどをします。

- 日時 2日、9日、16日(金)
 午前11時から午前11時15分まで
 ■場所 図書館「お話のコーナー」
 ■対象 0歳から3歳程度

12月の休館日 5日、12日、19日、23日、26日、29日～31日

平成29年1月の休館日 1日～6日、9日、10日、16日、23日、26日(月末休館日)、30日

※月末休館日は、図書整理等のため休館させていただきます。
 ※休館中の返却は玄関横の返却ポストをご利用ください。

問合せ／図書館 TEL 75-2266 FAX 75-0506
 Eメール tosyoo@betsukai.jp